

次世代プログラム運営会議 研究者・研究課題審査(第1回)

- 日時 : 平成 22 年 10 月 21 日(木) 10:05 ~ 10:45
- 場所 : 中央合同庁舎第4号館 12 階 1214 会議室
- 出席者 : 相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、青木議員、今榮議員、中鉢議員、金澤議員

- 議事要旨 :

(相澤議員)

次世代プログラム運営会議を開催する。本日は、最先端・次世代研究開発支援プログラムについて日本学術振興会の審査結果を報告いただく。今後は、当該審査結果を基に、総合科学技術会議における最終決定に向け検討を行う。それでは、日本学術振興会から審査結果について説明をお願いしたい。

(独)日本学術振興会小山内研究事業部長より、日本学術振興会における審査体制、審査プロセス及び審査結果を説明。

(相澤議員)

各課題の研究費の査定率はどのような基準で決めたのか。日本学術振興会から推薦された課題の申請総額を考慮した上で個別の査定率を決めているのか。

(小山内部長)

審査において、応募研究経費の妥当性についても評価を行っており、各審査委員が査定率100%、90%、80%、70%の中から適当と思われるものを選択し、これを平均した数字を査定率としている。

(相澤議員)

申請総額に関しては考慮していないという理解でよいか。

(竹田参事官)

補足させていただく。日本学術振興会から推薦のあった課題では、各都道府県から最低1件採択するという要件を満たさない。推薦されたものの中に含まれていない都道府県については別紙にまとめている。配分額の総額は推薦のあったものだけでグリーン●億円程度、ライフ●億円程度。各都道府県最低1件という要件を満たすためにさらなる査定が必要だと思われる。

(相澤議員)

まず日本学術振興会が査定率を決めた根拠のみを説明いただきたい。

(小山内部長)

先ほど申し上げたとおり、小委員会の各審査委員の査定率を平均している。申請内容のみに基づいて査定しており、そこからさらに圧縮するといったようなことは行っていない。

(奥村議員)

各課題の順位ではなく、全体的な課題のレベルについて何うが、推薦のあったものは特に優れた課題であると評価されたものか。審査結果にはそのような所見が記載されていないため、全体的な期待感が見えない。

(小山内部長)

上位の課題に関しては、かなり期待できると考えている。部会及び小委員会における審議をお聞きした限りでは、各審査委員も相当の期待を持っているようであった。

(白石議員)

奥村議員の質問と関連するが、上位の課題については、各委員がファンディングをする意義があると感じているという理解でよいか。もしくは本当はさらに選別をした方がよいと感じているのか。

(小山内部長)

研究費の配分額については、もっと低い金額でも十分ではないかという意見があり、部会での最終審査においても、そのような意見を述べられた小委員会の主査が数名いた。しかしながら多数派ではない。

(中鉢議員)

配分額ではなく、各課題の質についてはどうか。

(小山内部長)

ヒアリングを実施したところ、大化けすることが期待されると思われる課題がかなりあり、審査にも熱が入っていた。ボーダーラインの課題について議論するときもそのような可能性を考慮して議論されていた。ドングリの背比べで課題を切ったという小委員会は無いと考えている。

(奥村議員)

今年グラフェンでノーベル賞を受賞した研究者は、2001年に7,000万円のファンディングを受けている。それが2004年のグラフェンの発見につながり、2010年にノーベル賞受賞という早さである。私の質問の意図は、このような成果が期待できる課題はあったのかということ。300件のうち1件でもそのようなものが出れば大成功だと思うが。

(小山内部長)

例えば、がん研究を主に扱った小委員会では、非常に有望な発想の課題がかなりあった。グリーンの環境技術でも斬新な発想の課題は多かった。

(相澤議員)

新しい体制で審査を行い、報告をまとめていただいたことに御礼申し上げます。ただいまのご報告を基に、これから総合科学技術会議における審査を進めることとする。今後のスケジュールについて説明をお願いしたい。

(竹田参事官)

配布したスケジュール案を参照していただきたい。目標としては、11月中に総合科学技術会議で決定いただくことを想定している。その後、日本学術振興会における交付決定を経て、研究者には1月ぐらいに研究費を交付したいと考えている。よって、毎週木曜日に次世代プログラム運営会議を開催し、3回程度で決定案をまとめることとしてはどうか。来週第一次案を検討いただき、修正を行った上で最終的に取りまとめるというスケジュールでどうか。

(相澤議員)

このスケジュール案を最速の場合とし、審査を進めていくこととする。以上で次世代プログラム運営会議を終了する。

以上